

1 はじめに

本校では、「一人一人が光り輝き、心豊かにたくましく生きる人間を育てる」を学校目標として日々の教育活動を行っている。

平成 22 年度からの2年間は、「児童生徒一人一人にとっての自立を目指した授業（指導や支援）をつくる～キャリア教育の視点を取り入れた授業の充実を目指す～」というテーマで研究を推進した。その結果、児童生徒の将来像を捉えて職員間で共有することや、キャリア教育の視点で日常の授業（目標や内容、支援）を見つめ直すことができた。同時に課題として、キャリア教育の視点上における児童生徒を実体把握する力、指導内容・指導方法を検討し実行する力、児童生徒や授業を評価し、次時に生かす力を身に付けるには、より良い研究の内容や方法をさらに検討していく必要があるということが確認された。

平成 24 年度初めの小、中学部職員を対象とした研究についてのアンケートでは、研究で取り組みたいこととして「児童生徒が主体的に参加できる授業づくりについて」「集団学習での授業について」「キャリア発達のための授業づくり」など、視点や具体的内容は様々であるが授業に関わることが多く挙げられた。高等部では、23 年度末に、学部研究として学校設定教科である「産業社会と人間」の授業について取り組むことが確認されていた。また、学校運営方針の重点として、「PDCA を重視し、『見える』教育を推進する」と掲げていることから、研究主題を「PDCA を重視した授業づくり」と設定した。

2 研究内容、実践

本研究は、以下の2点を目的とし、2年次計画で取り組む。

- ・PDCA を重視した授業実践、授業研究を積み重ね、児童生徒の成長を促すより良い授業づくりを行う。
- ・PDCA を重視した授業実践を行い、授業や児童生徒の変化（成長）を客観的に捉えることで、教職員一人一人が主体的に参加できる授業研究会を目指し、教職員の授業力や専門性向上の一助とする。

(1) 各学部の研究

- ア 各学部で重点をおく内容をサブテーマに設定し、PDCAを重視した授業実践を行う。
- イ 小学部は人とかかわる力を育てる授業、中学部は生徒の長所を見出す授業、高等部は卒業後のよりよい生活を目指した授業内容の工夫と実践にそれぞれ取り組む。
- ウ 寄宿舎では、応用行動分析を取り入れた事例研究に取り組む。

(2) 授業づくりに役立てる高教研講演会や研修会の開催

<1年次>

- ア 岩手県高等学校教育研究会特別支援教育部会講演会
新潟大学教育学部教授の長澤正樹先生を講師に、「知的障害の教育」という演題で講演を行った。

- イ 職員研修会（2回）

<2年次>

- ア 岩手県高等学校教育研究会特別支援教育部会講演会
岩手大学教育学部准教授の滝吉美知香先生を講師に、「発達障害児者の自己理解」という演題で講演を行った。

- イ 職員研修会（2回）

(3) ワークショップ型での全校授業研究会の実施

<1年次>

- ア 活発な意見交換が行われるように、「ルール」の共通理解を図る。
- イ グループ協議後の発表方法を工夫する。

<2年次>

- ア 授業づくりや授業参観の視点を設定する。
- イ グループ協議の方法を変更する。各グループから出された課題点の中から授業者が1つに絞り、その改善策について再び各グループで話し合いを行う。

(4) 授業づくりシート（資料1）の作成、活用

- ア 授業の課題、次回へ向けての改善点、それを受けての結果を複数回の授業について見られるようにするため作成する。

イ 高等部では「産業社会と人間」の授業において、次年度同単元に取り組む学年が参考にできるように、独自の様式のシートを作成する。

3 まとめ

(1) 各学部の研究について

どの学部もPDCAサイクルを活用した授業実践や学部授業研究会を重ね、より良い授業づくりに取り組むことができた。

寄宿舎においては、分析シートや記録を用いながら、棟ごとに行動問題への対応方法を統一することなどができた。

(2) ワークショップ型での全校授業研究会について

ワークショップ型研究会を実施することで活発な話し合いが行われ、授業者だけでなく参加者も、特に指導方法や支援方法、教材・教具などの面で自分の授業に役立てたり参考にしたりすることができた。

授業づくり、授業参観の6つの視点を設定したことは、授業参観や研究会においてその視点を意識したり、それによって意見が多く出されたりしたという意見が半数以上あった。しかし、研究協議の柱をメインに研究会を進めているので、あまり活用することができなかった。

グループ協議の進め方を変更したことは、課題点が明らかになる、授業者が知りたい改善策について聞くことができる という成果の一方、限られた時間内で改善策を導き出すことに時間不足を感じる参加者が多かった。今後も全校授業研究会を行う場合は、次回の授業に生かすことのできる具体的な改善策を出すために、話し合いを深めていく方法を検討していく必要がある。

(3) 授業づくりシートについて

授業づくりシートを作成することで、授業者は授業の課題や改善点を明確に捉えることができた。また、授業者間で話し合いをした結果をシートに記入することで、授業の課題や改善点、子供の変化などを教師間で共通理解することができたという成果があった。

全校授業研究会で授業づくりシートを資料として見る参加者からは、授業づくりの経緯を知る資料として役立ったという意見が多く挙げられた。

課題として、シートを作成する機会が、全校授業研究会や学部授業研究会の授業者になった時に限られ、普段の授業にいかせていないということが挙げられていたが、小学部では学団合同の授業などで授業者間でシートを回覧し、課題点や改善策など気付いた点を記入してT1に戻し、次の時間に生かす取組が始められている。

2年間の研究を通して、各学部のテーマに基づき、学部研究会や授業研究会を重ねることでPDCAを意識して、日々の授業をより良くしていくことができ、児童生徒の成長を促すことができた。

また、ワークショップ型全校授業研究会や授業づくりシートの作成、年度末の全校研究会において学部ごとのポスター発表を取り入れたことを通して、教職員一人一人が授業について考えたり、意見を述べたりする機会が増えたことが成果である。全職員が主体的に研究に取り組み、児童生徒の成長のために授業力や専門性を向上できるよう、今後も努力していきたい。

授業づくりシート

学部、学年	教科名、単元名	授業のポイント
小学部 低学団	音楽「みんなで楽しく」	<ul style="list-style-type: none"> ・一斉に歌う場面になると歌わない児童への支援について ・音楽は好きだが、授業中に不適切な意思表示をしてしまう児童への支援について

- ①興味・関心、おもしろさ
- ②児童生徒の活動の質や量
- ③教師や友達とのかかわり
- ④環境や教材など物理的支援
- ⑤T-Tの連携
- ⑥教師の働きかけ(声掛けなど)

反省点(課題)	次回へ向けての改善点	前回の改善点を受けての結果 (児童生徒の様子)
<p>これまでの経過</p> <p>話し合いのグループ(低学団)</p> <p><A児></p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽の流れが昨年度と変わったこと、担任が授業に入っていないことから、ふざけて授業に集中することが難しかった。特に、リズムから授業の始まりの歌のところでは教室から出ようとする様子も見られた。ふざけていても歌はすぐに覚え口ずさむことがあったり、楽器でも、教師の指示通りのリズムを鳴らすことができていた。 ・各活動でご褒美カードを用意し、一番多かった児童がダンスや鑑賞で好きな曲を選ぶことにし、取り組んだ。 <p><歌></p> <ul style="list-style-type: none"> ・声を出すことが少ない。 ・CDだと児童の声が聞こえなかったり、スピードについていくことが難しい。 <ul style="list-style-type: none"> ・歌詞を覚えると曲の一部でも口ずさんでいる。 <p><楽器></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教室で担任と別れ、2,3年一緒に音楽室へ向かう。 ・かかわり遊びで十分に遊び、教師とのコミュニケーションが十分にとれた状態で授業に望む。 ・楽器では他の児童よりも難しい課題を与える。 ・各活動が終わった後、がんばった児童を賞賛し、洋服にシールを貼ることにする。 ・歌う前に発声練習を行う。 ・児童に合わせた早さでピアノ演奏をする。 ・歌詞がわかりやすいやまびこごっこを行う。 	<p>授業日 7月 1日(金)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かかわり遊びを教師とマンツーマンで行うことで、教室からの飛び出しは減り、次の流れへ落ち着いて流れることができるようになってきた。 ・「かえるの合唱」のメロディーを担当、簡単な楽譜を見ながらゆっくり演奏した。 ・シールをもらえるとうれしそうにしているが、それを目標にがんばるまでには至っていない。 ・どの児童も声を出すことができています。 ・ゆっくり歌うことで、歌詞を覚えている児童は元気に最後まで歌うことができた。他の児童も、一部を歌うことができた。 ・先生の後を追いかけて歌うことができる。 ・前半部分を児童が歌うことは難しかった。 ・決められたリズムでは間がありすぎて難しかった。 ・「ド」の1音では曲と違和感があったかもしれない。

		・歌のリズムに合わせたい児童が多かった。
授業日 7月 1日 (月)	話し合いのグループ (小学部)	授業日 7月 8日 (月)
<p><歌></p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌う場面と歌詞がはっきり分からないのではないか。 <p><楽器></p> <ul style="list-style-type: none"> ・リズムグループのリズムを児童がわかりやすいように早くしたほうがよいのではないか。 ・A児が得意な場面で目立るとよい。 	<p><歌></p> <ul style="list-style-type: none"> ・やまびこごっこの前半部分は教師が行う。 ・児童が前にでて発表する際は、T2が教室の後ろ側に移動し、やまびこのイメージが持てるようにする。 ・2音を交互に鳴らすリズムにする。 ・発表するときは前に出て発表する。 	<p><歌></p> <ul style="list-style-type: none"> ・追いかけてこの意味が分からず、教師の部分で声を出してしまう。 <p><楽器></p> <ul style="list-style-type: none"> ・2音を交互におそうという意識がある。 ・自分なりのリズムで演奏する児童が多い。
授業日 7月 8日 (月)	話し合いのグループ (全校研)	授業日 7月19日 (金)
<p><歌></p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員が多く児童の声が聞こえない ・T1と児童との距離が近すぎた。 ・歌うときの動作と聞くときの合図を動作や視覚支援で提示する。 ・2, 3人のグループからあわせてみてはどうか。 ・歌う前に聞き、リズムを覚える。 <p><楽器></p> <ul style="list-style-type: none"> ・一列に並ぶことで他の児童の様子が見えない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・聞く、歌うのプラカードで提示する。 ・教師同士の見本をみて、追いかけてこのルールを提示する。 ・発表者は前で発表する。 	<p><歌></p> <ul style="list-style-type: none"> ・プラカードで出すことで、「聞く」[歌う]の意識ができてきた。 ・曲の流れで、教師と一緒に歌ってしまうことも時々ある。 ・前で発表することで友だちの発表の様子を見ることができた。

小学部

児童の人とかかわる力を育てる授業を目指して

1 はじめに

小学部では、平成23年度まで「児童一人一人の将来像を想定した授業をつくる～キャリア教育の視点を取り入れた授業改善～」の研究テーマのもと、小学部段階におけるキャリア教育の視点を取り入れた授業の在り方について検討してきた。

その結果、授業の目標・内容・支援の意義を具体的に共有でき、小学部段階におけるキャリア教育の在り方について個々の職員が考えるきっかけとなった。一方課題として、児童の将来像や現在必要な力、及びキャリア教育の視点を授業や日常の指導に生かす方法の確立や、職員が日常的に授業改善に参加するための方法の検討が挙げられた。

また、小学部で現在育てたい児童の力について、「友達を意識した活動を通してコミュニケーションの力を育てたい」「児童が意欲をもち自発的に活動できる主体性を育てたい」といった職員の意見が多く出された。

その中でも、社会生活を送る上で必要となる適切な意志表現の力や、集団生活の中で場に応じて適切に行動するための能力は、小学部段階から育てたい大切な力と考える。

そこで本研究では、キャリア教育の視点の中から「人間関係形成能力」に焦点を絞り、小学部段階において育てたい「人間関係形成能力」を「人とかかわる力」として共通理解し、児童の「人とかかわる力」を育てる授業づくりを行うことで、児童のより生き生きと主体的に活動する姿につなげたいと考えた。

2 研究内容、実践

小学部では、二年次計画で以下の内容について研究を行った。

〈一年次〉

(1)小学部段階において育てたい「人とかかわる力」についての検討

ア 「人とかかわる力のとらえ」の作成

(表1参照)

表1 本校小学部「人とかかわる力」とらえ

	項目	小学部で育てたい力
人とかかわる力	意志表現	・自分の感情を表現する ・選択する ・自分から気持ちを伝える
	集団参加	・集団活動の場に参加する ・友だちと一緒に活動する ・教師や友だちとやりとりをする ・自分の役割に取り組む
	場に応じた言動	・挨拶、返事をする ・場に応じた言動をする ・清潔や身だしなみについて意識する
	自己理解・他者理解	・友だちや教師の存在を意識する ・自分の好きなことや好きなものを見つける ・自分のもっている力を発揮する

イ 児童の「人とかかわる力」を育てる授業についての小学部職員へのアンケート調査

(2)「人とかかわる力」の向上を目指した授業の検討

ア 「授業づくりシート」の活用

イ 月1回の研究授業ならびにワークショップ型授業研究会の実施

成果としては、アンケート調査や小グループでの検討を行い、小学部職員の意見を集約した「人とかかわる力のとらえ」を作成したことで、児童の実態に合ったものとなり、様々な授業において「人とかかわる力」を意識した取り組みを行うことができた。

一方で、「人とかかわる力のとらえ」が広すぎる、「授業づくりシート」の活用が主に授業提案者に限定したものである、児童一人一人の目標を共有し、評価する方法の検討が必要であるといった課題も挙げられた。

〈二年次〉

一年次の課題を受け、「人とのかかわり」の中でも特に伸ばしたい力として、「意志表現」の項目に絞り、研究を進めることにした。

(1) 「意志表現」を意識した取り組み

ア 「意志表現」の段階表の作成

(資料1参照)

イ 個別の指導計画内での「意志表現」の目標設定、評価

(2) 「意志表現」の向上を目指した授業の検討

ア 「授業づくりシート」の活用

イ 年4回の研究授業ならびにワークショップ型授業研究会の実施

成果として、個別の指導計画「自立活動」の中に「意志表現」の項目を作り、段階表を参考に目標を設定し指導を行ったことで、多くの児童に「意志表現」の成長がみられた。また後期の目標では、大人から教えられた言葉やツールを使って気持ちを伝える段階から、自分なりの言葉で気持ちを伝える段階へと目標を上げた児童もいた。

一方、児童一人一人の目標や支援方法について職員全員で検討する機会がもてなかった、普段の授業で「授業づくりシート」をうまく活用できなかったといった課題が挙げられた。

3 まとめ

2年間の研究において、小学部児童の実態に合った「人とかかわる力のとらえ」や「意志表現」の段階表を作成することで、より深く児童の実態を理解することができた。また2年間で計10回の研究授業を行い、ワークショップ型の研究会で課題や改善策が活発に話し合われた(資料2)ことで、それぞれの授業にフィードバックでき、職員の授業力向上の一助となった。活発な協議は研究会にとどまらず、日々の学団会や打ち合わせでも授業について多くの話し合いがなされている。

「意志表現」の目標の設定や評価を行うことは、日常生活や授業など様々な場面で「意志表現」を意識した指導や授業づくりを行うことにつながり、その結果、児童の「意志表現」の成長とともに、コミュニケーションの力や主体性にもつながってきている。

今後は「意志表現」だけにとどまらず、児童一人一

人の様々な目標や支援方法を共通理解する機会を設けることで、支援を共有することができ、児童のよりよい成長へとつながると考える。

学部授業研究会では、「授業づくりシート」を活用しPDCAサイクルを重視した授業実践を積み重ねたことで、授業の課題点が明確になり、具体的に改善策を検討し共有することで、児童の成長とともに授業の改善が見られた。

日常的な「授業づくりシート」の活用によって、授業者同士が共通理解を図ることができると考え、現在は低学団の音楽や高学団の体育でも「授業づくりシート」を簡略化し、授業者同士で回覧するなどして活用を始めている。

今後も様々な活用方法を検討し、「授業づくりシート」の定着を目指すことで、さらにより良い授業づくりを行うことができると考える。

小一資料1 「意志表現」段階表

		I 段階	II 段階	III 段階	IV 段階
意志表現	感情表現 自分から気持ちを伝える	<ul style="list-style-type: none"> ○表情や声で、快の感情を表現する ○表情や声で、不快の感情を表現する ○泣く、叩く、咬むなど、動きで不快や嫌な気持ちを表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○相手の手を引いたり身体を寄せたりなど、直接的に要求や気持ちを伝える ○身振りやサインなど、間接的に要求や気持ちを伝える ○自分の意志にそぐわない場合でも我慢する 	<ul style="list-style-type: none"> ○大人から教えられた言葉で気持ちを伝える ○カード、文字、IT機器などのツールを使って気持ちを伝える ○自分なりの言葉で気持ちを伝える 	<ul style="list-style-type: none"> ○適切な言葉や行動を自分で考えて表現する
	選択	<ul style="list-style-type: none"> ○興味のある具体物2つから選択する ○興味のある半具体物(写真、絵など)2つから選択する 	<ul style="list-style-type: none"> ○興味のある半具体物複数個から選択する ○提示された具体物2個から選択する 	<ul style="list-style-type: none"> ○提示された具体物や半具体物複数個から選択する ○言葉での提示で選択する(2択) 	<ul style="list-style-type: none"> ○選択肢がなくても活動に応じた適切な選択をする ○好きな物をパソコンで検索し、その中から選択する

小一資料2 学部授業研究会の記録(抜粋)

* [] は研究会後の授業の

授業	「人とかがわる力」「意志表現」他協議の柱	課題及び改善策、結果(抜粋)
低学団日生(1年)・朝の会 (H24、10月)	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数でもかかわる力を伸ばすための場の設定や声掛けについて(集団参加・教師や友達とやりとりをする) ・周りを見てやるべきことがわかるための状況作りについて(場に応じた言動) 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週1回2年生と一緒に朝の会を行う→2年生が司会をすると1年生ともいつもより話をよく聞いているようだ。 ・肩をたたいて依頼するのが形式的になってしまうので、顔や目を見て話をする→朝の会で教師を呼ぶときのみ、目を合わせて話したときだけ返事をするようにした。頑張っって目を見て話そうとすることが増えた。
高学団生単・性指導 * 全校授業研 (H24、11月)	<ul style="list-style-type: none"> ・重度の子どもにとってパーソナルスペースの指導はどうすればよいか(場に応じた言動・清潔や身だしなみについての意識) ・重度の子どもにとって性指導の内容はどういうものがよいか、またどう指導したらよいか(場に応じた言動・清潔や身だしなみについての意識) 	<ul style="list-style-type: none"> ・男女マークの学習や男女別の集合ゲームがわかりにくいので、児童の見える位置へ提示する。また、普段よく見る男女トイレマークへ集合する→男女マークを見る児童が増えた。 ・身体の成長(発毛)に見通しがもちにくいので、教材に実際の児童の顔写真を貼る→多少リアリティが増えた。 ・パーソナルスペースの体験がわかりにくい児童がいるので、適度な距離を体験しやすいよう「握手できる距離」をキーワードにする→パーソナルスペースについてわかりやすくなった。
低学団音楽 * 全校授業研 (H25、7月)	<ul style="list-style-type: none"> ・一斉に歌う場面になると歌わない児童への支援について ・音楽は好きだが、授業中に不適切な意思表示をしまう児童への支援について 	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちと歌を合わせるというのが難しいので、聞く、歌うのプラカードで提示する。教師同士の見本をみて、追いかけてこのルールを提示する。→プラカードで出すことで、「聞く」「歌う」の意識ができてきた。 ・特定の人の指示しか聞けないので、他の先生と一緒に良い行動ができた時に担任がほめる。→前で発表することでみんなにほめられ、また友だちの発表の様子を見ることができた。
高学団生単(6年)・修学旅行事後学習 (H25、10月)	<ul style="list-style-type: none"> ・質問や報告の方法や支援について ・複数枚の中から好きな写真を選んだり、コメントを充実させたりするための支援について 	<ul style="list-style-type: none"> ・伝える相手を意識した報告ができるようになるための工夫として、座席配置の工夫や手順表に報告する相手の写真を貼る、報告する相手の前へ動いて報告→T2に促されてカードを提示するようになった。 ・「選択」の意味を理解しているか疑問のある児童に対して、別な場面で写真ではなく具体物で示す選択学習を行う、修学旅行とそうでないものから選ぶなど選ぶ目的がはっきりわかるようにする→違う行事の写真でも関係なく選択してしまった。

生徒の長所を見い出す授業作り

1 はじめに

全校テーマが「PDCAを重視した授業づくり」となり、中学部では具体的にどのような研究を進めたいかと検討した結果、多くの職員から、「作業学習について」「教科指導について」など、縦割りで行う授業に関わって、より生徒の長所を見い出し、更なる伸長を図るためにはどのような支援が有効であるかについて検討し、共通理解を図りたいという意見が出された。その背景には、一人一人の持っている力を引き出し、発揮できるようにすることで、生徒が自信を深め、今後の充実した進路につながっていくのではないかと考えられたこと、障がいの程度の幅が広く、個々に支援の必要な生徒たちが在籍しており、一人一人の多様な実態に即した授業展開が日々、求められていることがある。

以上のことから、中学部では、授業実践を重ね、授業改善を図り、生徒の長所を生かし、主体的に活動する姿を目指した支援の在り方を探求していくこととした。さらに、長所の引き継ぎを念頭においたシートを作成し、共通理解を図り、授業における支援を具体的に検討することにより、生徒が現在もっている力を十分に発揮しながら主体的に活動に取り組むことができると考えた。

学部全員から授業をより充実したものにするための意見を出してもらった。それにより良い部分や課題、改善点がはっきりし、その後の授業を組み立てるときの参考にすることができた。

教科指導においては、教材や生徒の待ち時間の使い方、職員の声かけの仕方など、他グループでも取り入れることができる工夫点を共有することができた。

1年次、2年次ともに、それぞれの作業班、教科グループの授業提案をしたことで、学部全職員が担当以外の授業の様子を見ることができた。

話し合いで多くの意見が挙がった反面、討議が深まらないという課題が挙がっているため、ワークショップの進め方を検討する必要がある。

(2) 生徒一人一人の長所や特性について学部で共通理解

生徒の長所や特性を職員間で共通理解するため、年度初めに生徒に「キラリ☆アンケート」を実施した。1年次のアンケート項目は、①学校生活の中で挑戦してみたいこと②得意なこと③好きなこと④自分の良いところについて、2年次は、①国語・数学で勉強してみたいこと②国語・数学の勉強で得意なこと③国語・数学の勉強で好きなことについてアンケートを実施した。

実施したアンケート結果をまとめた「キラリ☆シート」を1年次は作業学習用（資料1）、2年次は国語・数学用（資料2）として作成した。1年次に「キラリ☆シート」によって担任以外も生徒の特性を具体的に知ることができたという成果があったが、記入量が多く、記入者の負担も大きかったため、2年次は簡略化して活用した。

授業研究会においては、毎回協議の柱の一つに「生徒のよさを生かしているか」という項目を挙げ、討議をした。

成果・課題

「キラリ☆シート」の活用は生徒の良いところや得意なことなどを再確認できる機会となり、普段関わりの少ない職員にとっても、生徒の様子を知る上で有効だった。また、生徒の得意なことや興味のあ

2 研究内容、実践

(1) 授業研究会

授業を参観したり、授業の様子のビデオを見て、授業担当者が抱えている指導上の問題点等について全員で改善提案をするワークショップ型の研究会を行った。

ア 1年次

「作業学習」（手芸、木工、リサイクル）の授業改善。

イ 2年次

習熟度別に5グループの縦割りで取り組まれている「国語」、「数学」の教科指導の授業改善。

成果・課題

活発な意見交換ができるように「良かった点」「課題」「改善策」を記入するための付せんを配付し、

ることを取り入れるなど、生徒の良さを生かす授業を計画するようになった。

生徒も楽しみながら学習でき、自分の力で取り組める課題があることで達成感を得られるようになった。

今後も「キラリ☆シート」の様式や使い方を検討しながら活用していきたい。

(3) PDCAを重視した授業実践

研究会後の授業がどのように改善されたのか、授業づくりシートを用いながら検証した。

成果・課題

PDCAを重視した授業実践を行うことで、授業者は教材の使い方や支援方法などの課題が明確になり、授業改善に有効であった。しかし、授業がどのように変化したのか、変化の過程が授業者以外の職員にとっては分かりづらいという課題が見えてきた。

3 まとめ

研究会を通して生徒の様子や得意なこと、頑張っている姿を知る機会となり、生徒の良さを改めて発見できるようになった。また、「キラリ☆シート」の活用により、授業者の意識も生徒の良い面を見ようというプラスの視点にたち、授業づくりを行うことができた。

1年次は作業学習、2年次は教科指導に焦点を当て授業改善を図った。より多くの授業を見ることで教材や支援方法が参考になり、担当授業に生かすという良さも見られた。

今後もPDCAを重視した授業実践に取り組んでいきたい。

-キラリシート-

2年B組 氏名()

記入者()

<p><セールスポイント> ..</p>		
<p><生徒> ..</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大きな声で挨拶をすることが得意。.. ・掃除をすることとたわし作りが得意。.. ・優しい。.. ・調理をもっとやりたい。.. ・好きなことはパソコンと遊ぶこと。.. 	<p><職員> ..</p> <ul style="list-style-type: none"> ・片付け、掃除をいとわないでやる。.. ・人見知りしない。.. ・面倒見がいい。.. ・人前で話すことが好き。.. 	<p><のぞむ姿> ..</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トラブルがなく、自分のやるべきことに集中できる力を付けさせたい。.. ・自信を持って行動できるようになってほしい。..
<p><教科名> ..</p> <p>作業:手芸班</p>	<p><目標> ..</p> <ul style="list-style-type: none"> ・提示された作業に最後まで取り組む。.. 	
<p><手立て> ..</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分かりやすい作業量の目標を立てる。.. ・教師に報告する回数を増やして、意欲が高い状況が継続できるようにする。.. ・達成できそうな課題を設定する。.. ・賞賛する機会を増やし、自信をつけさせる。.. 	<p><結果> ..</p> <ul style="list-style-type: none"> ・報告の仕方を提示し、手元において作業をした。報告の際に迷うことが無くなり、正しい言葉で報告できるようになった。報告する回数が増え、賞賛される機会が増えた結果、集中して長い時間取り組むことができるようになり、間違いややり直しを指摘されても素直に修正することができるようになった。.. ・達成できそうな課題を設定したことで、自分の目標を達成しようと意欲的に取り組む事ができるようになった。.. 	
<p><次にできそうなこと> ..</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今より細かい縦い目の刺し子ふきん縫い。.. 		

キラリ☆シート

国語 数学

A グループ

記入者

氏名	長所	やりたいこと／得意なこと	授業に生かすポイント	備考
A	諦めないこと。 友達と仲良くできる。	四則計算 図形 電卓	計算が正確にできる。 分からない時には、難しいと伝えることができる。 答えが分かった時には、積極的に発言することができる。	
B	分からないときは自分から質問できる。	割引計算 かけ算	間違いややり直しがあっても、最後まで取り組むことができる。 買い物の経験が豊富で、日頃から自分の小遣いで買い物をしている。	
C	計算が速い。 最後まで諦めない。	時計 お金 小数の足し算	分かったことは積極的に発言することができる。 金額を考えながら予算内で数種類の買い物をすることができる。	
D	いつも明るい。 自分の気持ちを少し言える。	電卓 割引計算 足し算、グラフ、図形を書くこと	分からない時には、自分から質問することができる。 買い物の経験が豊富で、安売りに興味がある。	

高等部

卒業後のよりよい生活を目指した授業内容の工夫と実践

1 はじめに

高等部では、教育課程編制において「働く力」「生活する力」「余暇の充実」の3つの柱に据え、「自己理解」「自己表現力」「自己選択力」「役割を認識する力」の向上を図る授業づくりに取り組んでいる。中でも学校設定教科である「産業社会と人間」は、「自己の生き方の探求を通して、職業を選択し決定する場合に必要な能力と態度を養う。」「将来の職業生活を営む上で必要な態度やコミュニケーションの能力を培うことや、現実の産業社会の中で生き方について考えたり、豊かな社会生活を築くために積極的に社会にかかわろうとしたりする意欲や態度を育てる。」ことをねらいとして取り組まれている。

本研究では、卒業後の生活を見据え、「産業社会と人間」の1～3学年の系統的な学習内容、評価、支援のあり方、教材について検討することとした。

2 研究内容、実践

(1) 研究内容

ア 1年次

- ・生徒一人一人の卒業後の社会生活に必要な力を身につけることを目指して、「産業社会と人間」の授業における、学年ごとに求められる課題の検討および共通理解。
- ・同一単元において、学年に応じた授業づくりや発展させた内容の検討。

イ 2年次

- ・「産業社会と人間」の授業の3学年共通の単元において、前年度からの改善（学習内容の系統性、評価、支援のあり方、教材等）によって、指導が効果的なものになったかの検証。

(2) 研究方法

ア 4グループ（チェックシートグループ、食べ物と栄養グループ、社会人になるためにグループ、情報の収集と活用グループ）に分かれ研究を進める。

- ・食べ物と栄養グループ、社会人になるためにグループ、情報の収集と活用グループは、昨年度の成果・課題を基に（系統性をもたせた学習内容について）検討した授業を実施し、検証を行う。

- ・チェックシートグループは、昨年度検討した様式を全学年で実施し、学年に応じて効果的に活用できるか検証する。

イ 月一回の学部研究会において、実施授業について報告・検討を行い、成果・課題点を確認し、今後の実施に向けた意見を集約する。

(3) 実践

ア 共通する単元の整理

学習内容が共通する単元について、単元名を統一し、3学年を通してナンバリングを行うことで、系統的に積み重ねられていることが分かりやすいように整理した。（資料1）

（「働くために」の単元は、内容が発展していくため単元名が「働くために」→「社会人になるために」→「社会人になる」と変わっていくが、共通単元として捉えるものと確認した。）

イ グループでの授業検討、実践

3学年に共通する単元の授業担当者で、縦割りグループを構成した。それぞれの学年で検討した授業計画を持ち寄り、系統性の検討、授業実施後の反省などを行った。

(ア) チェックシートグループの実践

これまでのチェックシートを見直し、「生活面」「作業面」「対人面」の3つの観点に分けた新しい様式を作成し、産業現場等実習の事前事後指導で実施した。（資料2）

1年次の課題

- ・生徒自身が自分の課題に気づきにくい
- ・自分の成長がわかりにくい



グループ、各学年での
反省・検討

改善取り組み

- ・個人評価記録（3年間）の一覧用紙を作成
- ・担当者からのコメント（他者評価）欄の追加



2年次の実践

2年次の成果

- ・実習前後の指導で、個々の評価を加味しながら、学年・発達段階に応じた指導を組み入れることができた

「食べ物と栄養」の単元は、栄養素と基礎食品群についての学習を通して、バランスの良い食事や食生活を考えることをねらいとし、授業実践を行った。(資料3)

1年次の課題

- ・卒業までに身につけたい力を明確にし、3年間でステップアップする内容の計画
- ・栄養教諭の授業を全学年で行った方がよい

↓
グループ、各学年での
反省・検討

改善取り組み

- ・3年間の流れで学習が進むような授業計画
- ・全学年で栄養教諭の講義を行う

↓
2年次の実践

2年次の成果

- ・1年；弁当購入→2年；容器に弁当を詰める→3年；自分の弁当箱に詰めるという学習の流れを作ることができた
- ・学習を積み重ねた結果、栄養食品群の理解につながった

2年次の成果

- ・場面の設定により、具体的な状況に応じた理解を深めることができた
- ・グループ別に行うことで、内容を深く扱うことができた

(エ) 情報の収集と活用グループ

テレビ、新聞、インターネット、広報、掲示物からの情報の収集の仕方、電話の利用やマナー、地図・施設館内図の読み取り、公共交通機関の料金・時刻表などの内容を扱った。(資料5)

1年次の課題

- ・能力に合わせたグループ別での指導や、教材の工夫が必要

↓
グループ、各学年での
反省・検討

改善取り組み

- ・個々に応じた資料の提示の仕方を工夫する
- ・体験的な学習を取り入れる

↓
2年次の実践

(ウ) 社会人になるためにグループの実践

人との関わり方、場に応じた望ましい振る舞い方などのルール・マナーに関わる内容、衛生、健康、身だしなみなどのエチケットに関わる内容、職場や公共の場所でのマナーに関わる内容、挨拶、言葉遣い、意思表示などのコミュニケーションに関わる内容、性指導に関わる内容などを扱った。(資料4)

1年次の課題

- ・視覚的、体験的に分かる指導の必要性
- ・実態に応じた指導のあり方(教材の工夫、グループ別指導)

↓
グループ、各学年での
反省・検討

改善取り組み

- ・実際の場面を想定したロールプレイを取り入れる
- ・グループ別の指導形態、学習シート、スライド

↓
2年次の実践

2年次の成果

- ・地図を読み取りながらの活動で、実体験を伴った理解を図ることができた
- ・実態に応じて提示の仕方を変えたことで、個々の生徒が資料を活用することができた

3 まとめ

(1) 学習内容の系統性について

年間目標や各単元の実施時期、学習内容等をさらに見直し、高等部3年間を見通した系統性の改善が図られた。引き続き、各単元のつながり、発展性、実施時期、卒業までを見据えた段階の検討を続けていき、計画的な指導ができるようにしていきたい。

(2) 評価について

見直しを図ったチェックシートや一覧表によって、一人一人が自分の課題点に気づき、自分の課題を洗い出すことができるようになってきている。今後は個別の指導計画への組み入れ方などの検討もを行い、「産業社会と人間」の授業以外の指導にも活

用していきたい。

(3) 支援のあり方・教材について

学習集団の人数や生徒の実態、授業内容によって、グループ別の指導形態や、ロールプレイを取り入れた支援を行い、指導効果を高めることができた。また、学習内容によっては、学年を超えたグルーピングなども取り入れていくことも有効ではないかと確認された。

(4) 単元グループでの授業検討

学年で検討した授業計画を3学年の各単元担当者のグループでも検討することで、3年間で発展していく指導内容などを意見交換することができた。学年毎での授業検討では、その時々の実態に重きを置きがちになってしまうこともあるため、グループでの授業検討や意見交換は系統性の検討に有効であった。

高一資料

H25年度「産業社会と人間」年間指導計画（抜粋）

H24年度「産業社会と人間」年間指導計画（抜粋）

月	1 学 年	2 学 年	3 学 年
4～6			
7	・働くために① (清潔、身だしなみ、病院の 利用の仕方)	・働くために① (健康管理、生活リズム、清 潔、身だしなみ、金銭の管 理)	・社会人になるために① (日常生活のリズム、休日の 過ごし方、計画的な買い物)
8	・食べ物と栄養① (バランスのとれた食生活、 栄養素、弁当購入)	・食べ物と栄養① (バランスのとれた食生活、 栄養素、弁当購入)	・食べ物と栄養 (食生活と栄養のバランス、 弁当作り)
9			・情報の収集と活用① (卒業生の体験談)
10			
11	・働くために② (マナー、金銭管理、公共機 関、時刻表・料金、療育手 帳)	・働くために② (人との付き合い方、望まし い振る舞い方、マナー)	
12	・食べ物と栄養② (バランスのとれた食生活、 栄養素、調理)	・社会人になるために① (生活リズム、生活習慣、清 潔、身だしなみ、肥満、体 力作り、病院の利用の仕方)	・社会人になるために② (身だしなみ、上司、同僚と の付き合い方、異性との付 き合い方)
1		・食べ物と栄養② (バランスのとれた食生活、 調理)	・情報の収集と活用② (福祉制度についての学習)
2	・情報の収集 (テレビ、新聞、インターネ ット、広報、掲示物の見方) ・働くために③ (相談相手、男女交際、大人 になるために)	・社会人になるために② (人との関わり方、相手への 伝え方、感情表現、相談相 手、適切な異性との関わり 方、大人になるために) ・情報の収集と活用 (テレビ、インターネット、 広報)	・社会に踏む出す心構え (社会人としての服装・マナ ー、ホテルにおける食事マ ナー、預金通帳)
3			

月	1 学 年	2 学 年	3 学 年
4～6			
7	・働くためにⅠ (清潔、身だしなみ、挨拶の仕 方、病院の利用の仕方)	・働くためにⅣ (健康管理、生活リズム、清潔、 身だしなみ、金銭の管理)	・社会人になるためにⅣ (健康管理、生活リズム、清潔、 身だしなみ、金銭の管理、自 分の体、異性の体、心の変化)
8	・食べ物と栄養Ⅰ (バランスのとれた食生活、栄 養素、弁当購入)	・食べ物と栄養Ⅲ (バランスのとれた食生活、栄 養素、弁当購入)	・食べ物と栄養Ⅴ (バランスのとれた食生活、栄 養素、弁当作り)
9		・情報の収集と活用Ⅱ (電話、電話帳、テレビ、イン ターネット、広報、交通手段、 時刻表、料金表、療育手帳)	・情報の収集と活用Ⅲ (時刻表、療育手帳、パスカー ド、利用料金の調べ方)
10			
11	・働くためにⅡ (マナー、金銭管理、公共機関 の利用、時刻表・料金、療育 手帳)	・社会人になるためにⅠ (人との付き合い方、望ましい 振る舞い方、マナー)	・社会人になるためにⅤ (給料の使い方、生活費、貯金、 甘い誘惑、身だしなみ、上司、 同僚との付き合い方、異性と の付き合い方、卒業生の体験 談)
12	・食べ物と栄養Ⅱ (食生活、栄養素、調理) ・働くためにⅢ (相談相手、男女交際、大人に なるために)	・社会人になるためにⅡ (生活リズム、生活習慣、清潔、 身だしなみ、肥満、体力作り、 病院の利用の仕方)	・食べ物と栄養Ⅵ (バランスのとれた食生活、栄 養素、弁当作り)
1		・食べ物と栄養Ⅳ (バランスのとれた食生活、調 理)	
2	・情報の収集と活用Ⅰ (テレビ、新聞、インターネッ ト、広報、掲示物の見方)	・社会人になるためにⅢ (人との関わり方、相手への伝 え方、感情表現、相談相手、 適切な異性との関わり方、大 人になるために)	・情報の収集と活用Ⅳ (福祉制度、選挙権、税金、療 育手帳、年金、保険制度、相 談ののってくれる機関) ・社会人になる (社会人としての服装、ホテル における食事マナーと服装、 預金通帳、冠婚葬祭、身の守 り方、社会人としての心構 え、学校と社会の違い、相談 に乗ってくれる人)
3			

高一資料 3

授業づくりシート

学部、学年	教科名、単元名	単元目標
高等部 1学年	産業社会と人間「食べ物と栄養Ⅰ」	・栄養バランスのよい食事と偏りのある食事の違いが分かる。 ・栄養バランスを考えながら、食事メニューを選ぶことができる。

月日	学習内容	学習形態 一斉 グループ別 クラスごと	学習目標	支援内容	評価	次回・次年度に向けての改善点
8月21日	○近い将来、自分で食事を用意しなければならないことを知り、食事を用意する方法について考える。 ○自由に献立を立ててみる。	一斉 グループ	○自分で食事を用意する方法を考えることができる。 ○献立を立てることで、自分で食事メニューを選ぶという意識を高める。	○パワーポイント、学習プリントを用いた。 ○主食・主菜・副菜の写真カードを配布し、献立表に食材の写真を貼付するようにした。	△	○パワーポイントで説明した内容と学習プリントを一致させた方が分かりやすい。
8月23日	【栄養教諭による授業】 ○主食・主菜・副菜について知る。 ○栄養バランスのよい食事について知る。	一斉	○主食・主菜・副菜の役割が大まかに分かる。 ○栄養バランスのよい食事について大まかに理解する。	○食材カードを用いて、食品を黄・赤・緑の3つの食品群に色分けした。 ○給食の献立表から、主食(黄)・主菜(赤)・副菜(緑)の説明をした。(それぞれ色分けをした)	△	○生徒の実態に合わせてグループを分ければ、より理解しやすかった。 ○食材カードを肉、魚、野菜など分類しながら黒板に貼ることで、食材そのものの色と食品群の色とを混同することが少なくなると思われる。
8月26日	○栄養バランスのよい弁当について考える。 ○サンプルの中から、栄養バランスを考えながら弁当を選ぶ。	一斉	○栄養バランスのよい食事を弁当に当てはめて考えることができる。 ○サンプルの中から、栄養バランスのよい弁当を選ぶことができる。	○主食、主菜、副菜に分けた色々な料理のイラストを、弁当箱に見立てたプリントに、栄養バランスを考えながら貼付するようにした。 ○実際に購入する店で弁当の写真を撮影させてもらい、サンプルとした。	△	○「弁当」という形にこだわらず、バランスのよい「昼食」を考えることができるように、様々な食材を提示する。 ○弁当を選ぶことの難しい生徒には、サンプルの数を絞って提示すると選びやすかった。
8月30日	○栄養バランスを考えながら昼食を購入する。 ○購入した昼食について、プリントにまとめる。	グループ 個別	○主食・主菜・副菜のバランス、自分が食べられる量を考えながら昼食を買うことができる。 ○購入した昼食について、プリントにまとめることができる。	○購入前に、昼食を選ぶときに気をつけるポイントについて確認した。 ○昼食を食べ始める前に、気をつけたポイントを記入するようにした。	○	○購入した昼食をお互いに見合う時間を設ければよかった。

授業づくりシート

学部、学年	教科名、単元名	単元目標
高等部 2学年	産業社会と人間「食べ物と栄養Ⅲ」	・三色栄養群および6つの基礎食品群の栄養素とそのはたらきを知る。 ・6つの食品群の食材をバランスよく選び、弁当を詰めることができる。

月日	学習内容	学習形態 一斉 グループ別 クラスごと	学習目標	支援内容	評価	次回・次年度に向けての改善点
8月23日	○前年度の振り返りと復習 ・三色栄養群(主食・主菜・副菜)のはたらき ・6つの基礎食品群の栄養素とはたらき ・休日の昼食、自分の好きな食べ物を6つの栄養素に分類する。	一斉	○三色栄養群のはたらきを知ることができる。 ○6つの基礎食品群とはたらきを知ることができる。 ○自分の食事の傾向に気付くことができる。	○前年度の学習内容を思い出しやすいように前年度使用したパワーポイントも活用する。 ○教材:パワーポイント、学習シート	△	○プロジェクターで映した栄養素の表とプリントの表がリンクしていると分かりやすい。
8月26日	○栄養教諭の授業「栄養バランスの良い食事について考えよう」 ・バランスの良い食事 ・健康と栄養	一斉	○栄養バランスのよい食事が分かる。 ○給食の献立を6つの基礎食品群に分けることができる。	○教材:学習シート、紙板書	○	○紙板書の大きさを座席の生徒にも見えやすい大きさにするとよい。
8月28日	○メニュー決め・買い物 ・決められた栄養素の食材を選ぶ。	グループ	○担当する栄養素を含んだ食材や惣菜、冷凍食品を購入することができる。	○栄養素ごとにグループ分ける。 ○栄養素を意識できるよう指定の栄養素の食品だけで作るメニューを提示する。	△	・各グループで決めたメニューや作る量を確認し、調整する。
8月30日	○栄養のバランスを考えた食事(弁当) ・調理(グループごと) ・おかずをバランスよく選び、弁当に詰める。	グループ 一斉	○6つの基礎食品群が含まれるように、おかずを選んで弁当箱に詰めることができる。 ○しきり(バラ)やアルミカップの使い方を知る。 ○弁当の画像を見て、バランスや詰め方の善しあしに気付くことができる。	○自分で選択できるようにバイキング形式で弁当を詰める。 ○それぞれが詰めた弁当の画像を提示し、6つの基礎食品群が入っているか、バランス、詰め方について確認する。	○	○おかずの詰め方の例を示す。 ○おかずの量やバランスに極端な偏りがある生徒については、手直しをする時間を設ける。 ○アルミカップを使う必要性が分かるよう、アルミカップを使っておかずを詰めた弁当と、使わずにおかずを詰めた弁当を見たり試食したりする機会を作る。

○4列に分かれ弁当を詰めたことでスムーズにおかずを詰めることができた。
 ○おかずを紙皿に盛りつけたことで、片づけなどの時間短縮を図ることができた。
 ○メニュー決め、弁当の詰め方について触れる時間が十分に取れなかった。「栄養教諭の授業→メニュー決め・買い物→調理・弁当作り→振り返り」の流れで進めることができるとよい。産社の時間の配置について調整する必要がある。

授業づくりシート

学部、学年	教科名、単元名	単元目標
高等部 3学年	産業社会と人間「食べ物と栄養Ⅴ」	・食物別の栄養素とその働きを知り、自分の食生活に活かす。 ・6つの食品群から食材をバランスよく選び、将来生活に向けて弁当を作ることができる。

月日	学習内容	学習形態 一斉 グループ別 クラスごと	学習目標	支援内容	評価	次回・次年度に向けての改善点
8/21 (水)	・栄養バランスの良い食事	一斉	・給食とお弁当を6つの基礎食品群に分けることができる。 ・お弁当に使われている食品群には偏りがあることが分かる。 ・バランスを考えたお弁当を選ぶことができる。	・栄養教諭による授業 ・パワーポイント ・学習シート ・写真画像	○	○給食で食べた献立を食品群別に分類できる表の活用は栄養バランスの理解に有効。 ○栄養教諭による指導内容は、全学年、学習内容をステップアップして展開していくことが求められる。
8/23 (金)	・お弁当作りで気をつけたいこと ・栄養バランスのとれた弁当の献立	一斉	・栄養バランスのよい食事について理解する。 ・お弁当作りのポイントを知る。 ・自分が作るお弁当のおかずを知る。	・パワーポイント ・学習シート ・写真画像	◎	○生徒に食品カードを渡し、食品群に分ける役割を設定したことは良い。 ○食物カードや6つの食品群の黒板を活用したことは理解を得やすい。 ○お弁当のレイアウト図を記入してイメージをつかめるようにしたことは良い。 ☆自分が作ったおかずをメニューに選ぶように促した方が意欲の向上に繋がる。
8/28 (水)	・献立材料調べ ・献立のレシピ作り ・買い物リスト	一斉 グループ別	・個人ごとにレシピ表を作成し、献立作りイメージをもつことができる。 ・食材は、6人分の分量計算を行うことができる。	・パワーポイント ・買い物リスト表 ・レシピ表 ・電卓	○	○生徒の進捗の差を調整するため、献立の絵を描くように促したことは、生徒の待ちを少なくするのに有効。 ★生徒によっては、カラーのレシピ表を提示した方がよい場合もある。 ☆食材の売り場にも触れると学習内容を深めることができる。
8/30 (金)	・買い物 ・お小遣い帳の記入の仕方 ・おかずの分量計算	一斉 グループ	・食材を一人で探し出し、購入することができる。 ・予算とかかった経費、おつりの計算ができる。 ・弁当詰めのおかずの分量をイメージすることができる。	・パワーポイント ・自分の弁当箱に食材を詰めて分量を確認する	◎	○買い物→冷蔵庫保管→お小遣い計算→報告の流れをスクリーンに提示しておくことで生徒一人一人が主体的に活動することができた。 ☆弁当箱におかずを詰めて分量をイメージする活動は、1品目でいったが、今後は、2～3品目と増やすとさらにイメージをもちやすい。ごはんの適切な分量も学べる機会を作る。
9/6 (金)	・お弁当作り	一斉 グループ	・時間内に一人、一品、おかずを作ることができる。 ・栄養バランスや弁当詰めポイントに気をつけながら弁当を詰めることができる。	・レシピ表 ・お弁当のレイアウト図 ・スケジュール表	◎	○生徒の実態に合わせたメニューを提示できたことで、時間内に調理を済ませることができた。 ☆一人で2品目は作る、冷凍食品やお惣菜の活用、安値でできるおかず作り、時短、旬の野菜や果物にも触れ、将来生活に繋げることができる。
9/9 (月)	・お弁当作りを振り返ろう	グループ	・弁当作りを振り返り、成果と改善点に気付くことができる。 ・食物別の栄養素とその働きを知り、自分の食生活に活かすことができる。	<Aグループ> ・話し合いの手がかり表 ・プロジェクター ・発表シート ・模造紙 ・学習プリント ・拡大投影機	○	<Aグループ> ○教師が良いモデル、悪いモデルとなるお弁当を提示したことは意見交換しやすく、生徒の気付きを促すことができた。 ○栄養教諭のコメントは生徒の心に届きやすい。 ○T1、T2の役割分担がなされていた。 ★発表シートをさらに膨らませ、意見交換できるようにする。評価の観点を具体的に示す。 ★終結の部分に力点を置き、将来の食生活に繋げていくことのできる支援の工夫が必要。 <Bグループ> ○前時に行った調理活動の様子について画像を見て振り返ることで弁当作りを振り返りやすい。

単元を通して

○栄養教諭による指導

・単元の初めに栄養教諭による食品群のバランスの学習内容を取り入れて3日目になる。学習を積み重ねた結果、多くの生徒が食材を6つの食品群に分けるようになった。初めに栄養教諭の学習を入れることは有効である。今後は、栄養教諭による指導内容をステップアップ化できるように綿密な打ち合わせが必要である。

○グループ別学習

・将来を見据えて弁当作りの事後学習の指導では、生徒の実態に合わせた教材の提示、グループ化して取り組んだ。今回は、一つ上の課題提示を行い、課題解決能力、意思表現能力等、キャリア教育の視点で授業展開を行って単元を設定していく。(12月)

○弁当作りのポイント

・単元指導内容の中に栄養バランス、彩り、すき間、分量等を押さえた。実践した結果、アルミカップの使い方、予算、時間、おかずの分量、適切な盛りつけの分量が曖昧であったことから、修正して次回の学習内容で取り上げる必要がある。

○有効な手立て

・適切な分量が分かるためのシミュレーションの時間設定、弁当のレイアウトの記入、視覚に訴えるパワーポイントや現物やモデル、実態に合わせた献立の提示、カラーの画像、話し合いの手がかり表の提示は有効であった。

高一資料 4

授業づくりシート

学部、学年	教科名、単元名	単元目標
高等部 1年	産業社会と人間「働くためにⅠ」	<ul style="list-style-type: none"> ・身だしなみを整えることや整理整頓の必要性、健康な生活を維持する必要性を知ることができる。 ・身だしなみを整えることや健康に過ごすことの大切さを知り、現在の生活に活かすことができる。

月日	学習内容	学習形態 一斉 グループ別 クラスごと	学習目標	支援内容	評価	次回・次年度に向けての改善点
7月17日	・清潔・みだしなみに気をつけよう	一斉	<ul style="list-style-type: none"> ・制服の正しい着方、髪や顔を清潔にすることの必要性を知ることができる。 ・みだしなみや清潔な暮らしについて意識し、生活に活かすことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・みだしなみに特化したチェックシートを用意し、2人1組でみだしなみチェックを行う。 ・職員も制服を着用し、正しい着方、正しくない着方の見本を見せる。 ・乱れた服装等の写真を用意し、正しくない箇所を確認できるようにする。 	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・能力別にプリントを用意する。 ・職員も実際に見本を見せたことは、みだしなみを意識できるようにするために効果的であった。
7月19日	・整理整頓 ・働くために必要なこと	一斉	<ul style="list-style-type: none"> ・整理整頓をして生活することの大切さを知り、普段の生活に活かすことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・乱雑なロッカーや机の中、たたんでいない作業着等の写真を用意し、見ための悪さや物の管理の重要性を確認できるようにする。 ・実際に整理整頓を行い、教師のチェックを受けるようにする。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・整理整頓をするときのポイントをまとめたが、生徒の様子に合わせて内容を更にしぼる必要があった。
7月22日	・健康にすごそう	一斉	<ul style="list-style-type: none"> ・病院にかかるときに必要な物や、健康に過ごすことの必要性を知ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・病院に行くときに必要な物の確認、受付から会計までの流れをロールプレイをしながら全員で確認する。 ・心身の健康状況、休日の生活状況を振り返るプリントを用意する。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・より本番に近い状況にするために、診察券などを本物に近い物、教室配置を工夫する必要があった。 ・前日の生活状況を振り返るのが難しい生徒がいた。

授業づくりシート

学部、学年	教科名、単元名	単元目標
高等部 2年	産業社会と人間 「働く人になるためにⅣ」	・望ましい態度やマナーについて普段の生活の中で実行し、社会生活に生かそうとする気持ちをもつことができる。

月日	学習内容	学習形態 一斉 グループ別 クラスごと	学習目標	支援内容	評価	次回・次年度に向けての改善点
7月10日 (水)	実習の振り返り② —チェックシートを用いて—	一斉	・実習中の自分の生活を振り返り、自分の課題を知ることができる。	・チェックシート	○	
7月12日 (金)	働く人になるために —10日間の現場実習ノートから見えてきた課題—	一斉	・みんなと働くために大切な身だしなみ・整理整頓・体の清潔を意識した生活をする事ができる。	・パワーポイント ・実習日誌からの課題の抜粋(生活面を中心に) ・写真	◎	◎実習先(会社の人・施設の人)の人のコメントを載せ、どういった点(課題)が見られているか具体的に知ることができ興味をもつことができた。 ○整理整頓ができていない写真などが有効
7月22日 (月)	エチケット	一斉	・体を清潔に保つことの大切さとエチケットについて知ることができる。	・普段の担当ではなく、養護助教諭に話してもらうことにより、集中する。 ・紙芝居	◎	○普段分かっていると思われることでも、養護助教に話してもらうことにより、再度確認できた。(体・髪・口・爪・耳・ひげやケアが必要な体の部位や、ケアの仕方を知り、日常生活の中で意識することができた。
7月22日 (月)	大人になるために —望ましい男女交際も含め—	一斉	・自分を大切にする、他の人を大切にするとはどういうことか知ることができる。 ・健康な生活をするために必要な生活リズムについて知る。	・パワーポイント ・プリント	○	○夏休み前という時期に必要な内容

授業づくりシート

学部、学年	教科名、単元名	単元目標
高等部 3年	産業社会と人間「社会人になるためにⅣ」	・望ましいエチケットや男女間でのマナーを普段の生活の中で実行し、社会生活に生かそうとする気持ちをもつことができる。

月日	学習内容	学習形態 一斉 グループ別 クラスごと	学習目標	支援内容	評価	次回・次年度に向けての改善点
7月12日(金)	他人・異性に嫌われないためのエチケット	一斉	・エチケットの必要性を理解し、身だしなみに注意して生活することができる。	・画像 ・ロールプレイ	○	○実践的活動や画像等を通して、日常生活におけるエチケットの理解を促すことができた。 ☆実践的活動が少なかったため(耳掃除のみ)、日常生活で考えられる活動を更に取り入れると効果的である。
7月17日(水)	体のケアの仕方	グループ別 男子生徒 対象	・ケアが必要な体の部位や、ケアの仕方を知り、日常生活の中で意識することができる。	・学習プリント ・ディスカッション	◎	○具体的な部位や場面について、具体的に取り上げて確認しながらプリントにまとめることで、理解につなげることができた。 ☆より具体的なイメージを持てるように、ケアに必要な道具などの実物を用意して取り上げた方がよかった。
7月17日(水)	自分の体のケアの仕方	グループ別 女子生徒 対象	・自分の体のケアの仕方やケアする部位を知り、日常生活において意識することができる。 ・自分の体をケアするために必要な道具や用具を店内で探し出すことができる。	・パワーポイント ・校外学習 ・学習プリント	◎	○ケアの仕方を確認した後に、実際にケア用品を見に行ったり、プリントにまとめたりすることにより、意識の向上に繋がった。 ☆現物、画像を使用した。更に理解を深めるために具体物を使い、活用やケアの仕方を実践してみることで生活の中に活かすことができる。 ☆自分の下着が体に合っていない。自分の体のサイズを知る必要がある。
7月19日(金)	体の変化 誤解を招く行動とマナー	グループ別 男子生徒 対象	・自分の体、異性の体のしくみや変化を知る。 ・誤解を招く行動や場面について知り、異性との正しい接し方やマナーについて意識することができる。	・資料プリント(異性との接し方マナー) ・学習プリント ・ロールプレイ	◎	○誤解を受ける行動、場所について具体的な場面を取り上げながら確認していったことで、気付きにつなげることができた。 ○誤解を受ける行動や場面について、ロールプレイで示すことで、具体的な理解を促すことができた。
7月19日(金)	体の変化 誤解を招く行動とマナー	グループ別 女子生徒 対象	・自分の体、異性の体のしくみや変化を知る。 ・誤解を招く行動と異性との接し方、断り方など実践を踏まえて、理解することができる。	・パワーポイント ・ロールプレイ	◎	○異性からの不適切な誘いの断り等をマスターすることができた。 ○誤解を招かないために場面を捉えてどのように接したらいいのか話し合うことで望ましいマナーについて理解を促すことができた。 ☆異性に対して、自分が場面ごとにどのように接し、誤解を招いていないかチェック項目表があると、更に自己理解に繋がる。

全体を通して:

- ・男女別の指導形態で行うことにより、学習内容をより具体的に取り上げて行うことができた。
- ・望ましいエチケットや想定される男女間のマナーについて、学習内容を盛り込むことができた。
- ・ロールプレイを取り入れたこと、実際にケア用品を見に行ったりしたことなど、実践的活動は有効的であり、その後も日常場面の話題にあがるなど意識の向上につなげることができた。
- ・今回学習した内容を、どれだけ理解して生活に繋げていけるか、次回の授業では確認を含めつつ深めていく必要がある。

高一資料5

授業づくりシート

学部、学年	教科名、単元名	単元目標
高等部 2年	産業社会と人間 「情報収集と活用」	・活動する中で必要となる情報を収集して実際の活動に活用できる。

月日	学習内容	学習形態 一斉 グループ別 クラスごと	学習目標	支援内容	評価	次回・次年度に向けての改善点
8月23日	情報の収集と活用 校外学習グループ活動計画	一斉 グループ	・パワーポイントで紹介された場所(店舗等)を市街地マップから見つける。 ・市街地マップを活用し、グループ活動の計画を立てる。	・市街地マップ①② ・パワーポイント ・校外学習しおり		・インターネットを利用し、買い物の計画ができれば良かった。 ・市街地マップから指定された場所を見つけ出す活動に時間を要してしまい、活動計画の立案に時間を十分にとれなかった。
9月5日	情報の活用 校外学習グループ活動 情報の収集 時刻表の見方	グループ	・市街地マップを活用しながら、グループ活動の計画に従って行動することができる。 ・時刻表の見方を学ぶ。	・市街地マップ①② ・校外学習しおり ・各グループのミッション表		・実践の中で得られる経験は、将来の生活や修学旅行等の活動においても生かされるものとなった。 ・事前学習で取り組めなかった時刻表の見方を駅構内でグループごとに行うことができた。

- ・指定された場所を市街地マップから読み取る活動では、時間を要するグループはあったが、ヒントも手掛かりに全グループが探し出すことができた。地図を見て場所を探し出すということが生徒達にとってこれまであまり経験がないことが分かった。
- ・活動の計画を行う前に全ての場所の確認を行ったが、市街地マップを活用して活動の計画を行うことに困難を要するグループがあった。グループ活動のルートを決める際にある程度、移動距離を考え、また、時間を掛けずに回れるように考えたグループ(生徒達)もいた。
- ・校外学習では、市街地マップを頼りに教師からの声かけは最小限にすることとした。一部のグループが途中で迷ってしまい、マップに載っていないところまで行ってしまったが、その他のグループは仲間で声を掛け合いながら決められた時間内にグループ活動を終えることができた。
- ・実際に市街地で活動する際に市街地マップと目印となる建物を照らし合わせながら、自分達が地図のどの辺りにいるのかを理解できる生徒とできない生徒をある程度把握することができた。
- ・地図を利用しての情報を収集し活用する活動は、今後の生活において良い経験となった。

◎今後の活動として

今回の活動を生かし、修学旅行の取り組みでは情報の収集と活用を生徒の実態に応じて指導・支援できるようにしたい。

授業づくりシート

学部、学年	教科名、単元名	単元目標
高等部 3学年	産業社会と人間 「情報の収集と活用Ⅲ」	<ul style="list-style-type: none"> 公共交通機関の料金(手帳割引)、時刻などの調べ方について知ることができる。 見学する施設について、料金(手帳割引)、営業時間、場所(行き方)などの情報を調べることができる。 調べた情報を、見学コースの選定に活用することができる。

月日	学習内容	学習形態 一斉 グループ別 クラスごと	学習目標	支援内容	評価	次回・次年度に向けての改善点
9/2 (月)	・見学先の情報収集	グループ	・施設の営業時間、料金、割引などの情報を収集し、見学コース選択の参考にすることができる。	<ul style="list-style-type: none"> インターネット(見学先情報、市内地図) バス路線図(プリントアウト) バス時刻表(プリントアウト) 学習シート 	○	<ul style="list-style-type: none"> ○インターネットで調べた情報をもとに、電話で問い合わせ確認することは良い経験になった。 ▲個人が情報を調べる経験ができるように、パソコンは一人に1台はあった方がよい。 ▲インターネットでの情報収集に偏らず、ガイドブック、パンフレット、市販の時刻表など、様々な情報源に触れる機会とした方がよかった。
9/4 (水)	<ul style="list-style-type: none"> ・見学コースの選定 ・盛岡の名物調べ 	グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・交通手段(バス路線、時刻)などの情報を活用し、見学コースを決めることができる。 ・盛岡の名物について調べることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> インターネット(見学先情報、市内地図) バス路線図(ネット、プリントアウト) バス時刻表(プリントアウト) 学習シート 電話 	◎	<ul style="list-style-type: none"> ○バス路線図や時刻表はパソコン画面だけでなく紙出力した物の方が見やすい場合もある。 ○盛岡名物について調べ、実際に調理して食べ方を体験するなどして、イメージを膨らませることができた。 ▲見学コースに時間を割いたため、盛岡の名物についての活動が駆け足になってしまったグループもあった。
9/6 (金)	・鉄道の時刻・所要時間、料金割引制度、切符の購入の仕方	一斉	<ul style="list-style-type: none"> ・鉄道の時刻、所要時間、料金割引制度の調べ方が分かる。 ・窓口での切符の購入の仕方が分かる。 	<ul style="list-style-type: none"> パワーポイント インターネット(投影) 学習シート 	○	<ul style="list-style-type: none"> ○画面を投影して鉄道の時刻や料金などを調べる過程を見ることで、検索の仕方についての理解を深めることができた。 ▲一斉指導だけでは理解が難しい生徒もいるため、全員が実際に検索を試みる活動があればよかった。 ○窓口での話し方を実際の流れに沿って確認することで理解を深めることができ、当日スムーズに購入することができた。 ▲購入の流れをロールプレイで確認すれば、もっと理解を深めることができた。
9/13 (金) 9/17 (火)	・見学先などの資料製作	グループ	・見学先などについて調べたことを掲示用資料にまとめることができる。	<ul style="list-style-type: none"> インターネット 紙資料 	◎	<ul style="list-style-type: none"> ○紙面にまとめた資料を用意したことで、掲示用の資料を見やすく作成することができた。 ▲短縮時程のため、まとめて時間を確保することができなかった。掲示用資料は完成させることができた。

昨年度の反省事項とかかわって

○実態に応じた指導

・グループ分け・・・宿泊単元と絡める場合などでは、当日の班ごとに実態別のグループ分けがそぐわないこともある。

○インターネット以外の情報源の活用(ガイドブック、パンフレット、時刻表、地図、電話問い合わせ)

・複数の情報源を教材として用意することにより、様々な情報源に触れるきかいにできる。実態に応じた支援もしやすい。

○時数の確保

- ・まとめて時間を確保し、じっくり取り組めたほうが理解につながる。
- ・生単と絡めて行うことで、実際的な情報の活用を経験することができる。
- 生単、産社の扱いがあいまいにならないようにする。

応用行動分析を取り入れた事例研究の実践

平成22・23年度の寄宿舍研究は、チームで支援する体制や共通理解に重点を置き、インシデント・プロセス法を活用した事例研究に取り組んだ。その中から次の課題が確認されている。

◆児童生徒の変容や支援の経過を支援者全員で共有することのむずかしさ

◆インシデント・プロセス法では解決困難な行動問題への対応

そこで平成24・25年度の研究では、児童生徒への理解を深め、適切な行動を増やしていくために応用行動分析の基本的な考え方や手法を取り入れた事例研究に取り組むこととした。応用行動分析の手法に基づいて日頃の児童生徒とのかかわりを振り返り、適切な支援の在り方について共通理解を深めながら支援の充実・改善を図りたいと考え、本研究主題を設定している。

2 研究内容、方法（実践）

【1年次】

（1）職員研修会の実施

職員研修会① 平成24年 6月

「応用行動分析の手法を取り入れた

事例研究の進め方」

講師 岩手県立総合教育センター

最上一郎 先生

（2）実践

1年目の事例研究は、応用行動分析の手法に基づいてチーム（以下、棟）での取り組みとした。分析シート（資料1）を活用し、行動問題の傾向を確認してからのスタートとなった。この分析シートは設問により行動問題を点数化し、有効と思われる対応の確認を職員間で共有できるという特徴がある。

各棟から、以下の4つの事例が挙げられた。

- ・他害行動
- ・乱暴な言葉づかい、家庭での欲求不満
- ・相手が不快になる大声や声出し
- ・睡眠リズムの安定、就寝環境の整備

（3）事例研究会の実施

事例研究会① 平成24年 12月

助言者 発達障がい沿岸センター

佐藤 潤 先生

上記の4事例について、事例研究会を実施。棟ごとに応用行動分析の手法に基づいて取り組んできた支援の経過や、生徒の行動や様子にどのような変化がみられたか共通理解を図った。

【2年次】

（1）職員研修会の実施

職員研修会② 平成25年 5月

「応用行動分析の手法と

アセスメントについて」

講師 発達障がい沿岸センター

佐藤 潤 先生

（2）実践

2年次は、1年次に取り組んだ事例の継続支援のほか、気になる行動や伸ばしたい能力等さまざまな事例が挙げられた。取り組みは、個別の生活指導計画と合わせながら進めることとした。

（3）ケース会議

ケース会議 平成25年 8月

助言者 発達障がい沿岸センター

佐藤 潤 先生

支援の過程で専門家からのアドバイスがもらえたら…と考え、ケース会議の場を設定した。会議の相手方は棟ごとの相談とし、限られた時間内で気兼ねなく話せるかたちを目指した。どの棟もそれまでの行動記録やデータをもとに記録方法や支援の方向性等を確認し、困っていることを率直に相談していた。佐藤先生から役立つ支援ツールの見本もいただき、すぐに支援にいかせる貴重なアドバイスをもらうことができている。

（4）事例研究会

事例研究会① 平成25年 10月

2年次に取り組んだ事例についてレポート形式にまとめ、ワークショップ型を参考に、事例を通して職員間で学び合える研究会を目指した。

3 まとめ

(1) 成果

【取り組み後の職員アンケートより】

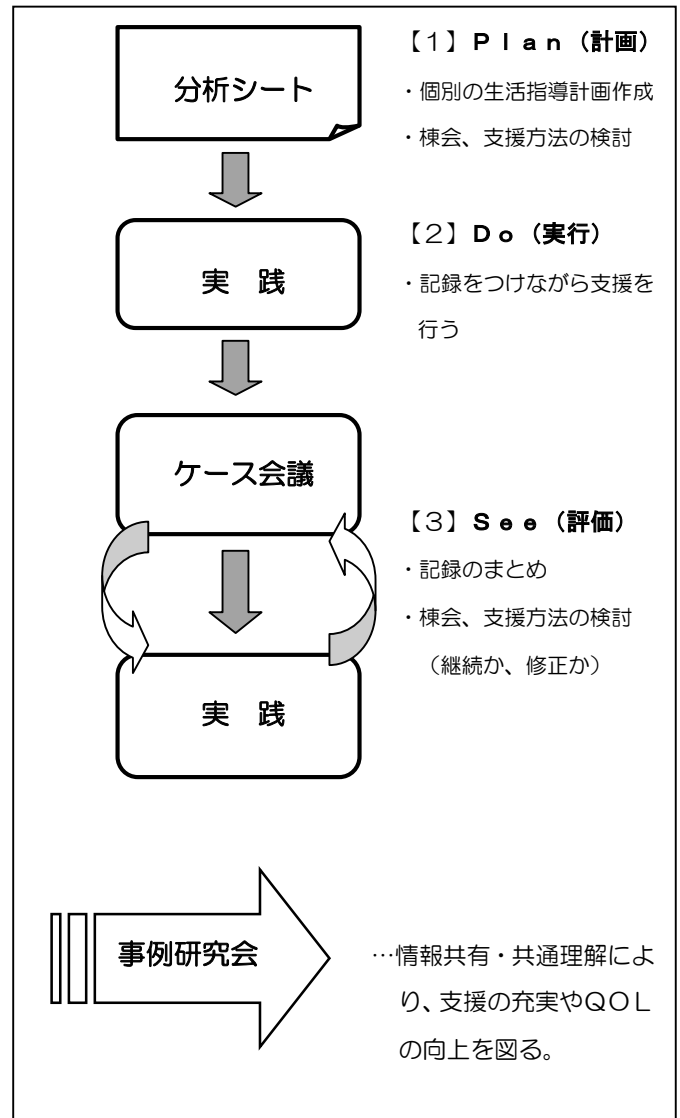
- ◇応用行動分析の手法は、日常的に活用しやすい。
 - ◇行動問題の前後の状況や環境を様々な視点からよく見るようになり、職員間で統一した指導や支援ができた。
 - ◇児童生徒へのかかわり一つひとつを意識し、ポジティブ思考の支援ができています。
 - ◇分析シートの活用により棟で話し合う機会が増え、生徒の支援についてアイデアや考え方を出し合えるようになった。
 - ◇ケース会議のような場を定期的に設けてほしい。
- 以上の成果が得られた。

(2) 課題

応用行動分析の考え方はすべての児童生徒とかわる上でも大切な基礎・基本となるものである。本研究で職員一人一人が意識できるようになった点を、今後も研究テーマに関わらず日々の支援の中で継続していきたい。

また、短期的な見直しを繰り返しPDS（資料2）のサイクルを築くためにも、ケース会議を設定することは有効であると考えます。今後、どのようなかたちでケース会議を継続していくか検討する必要があります。

▼目指していきたいPDSの流れ



分析シート

対象		記入者		記入日	年 月 日 ()
----	--	-----	--	-----	-----------

【1 問題とされる行動】 *具体的な行動	【2 その状況】 *背景、時間、頻度、前後の様子、結果

【3 質問による要因の調査】

		なし	ごくたまに	ときどき	半分くらい	たいてい	ほぼいつも	いつも
		0	1	2	3	4	5	6
1	その行動は、その児童生徒に長時間対応されなくても、繰り返し起こしていますか？							
2	その行動は、指導者・大人（以下、大人と表記）がその児童生徒に対して、本人にとって難しいことを要求した時に起こしていますか？							
3	その行動は、大人が同じ場で他の人にかかわっている時に起こしていますか？							
4	その行動は、その児童生徒が欲しい物を手に入れようとしたり、人から禁止されている活動をしようとしたりして起こしていますか？							
5	その行動は、周囲に誰もいない状況で、何度も同じように長時間起こしていますか？							
6	その行動は、大人がその児童生徒に何かの要求や指示をした時に起こしていますか？							
7	その行動は、大人がかかわりをやめたり注意を逸らしたりする度に起こしていますか？							
8	その行動は、その児童生徒が好きな物を取り上げられたり、好きな活動を中止させられたりした時に起こしていますか？							
9	その行動を、その児童生徒は楽しんでやっているように大人からは見えますか？							
10	その行動は、大人がその児童生徒に何かをさせようとした時に、大人を慌てさせたり困らせたりしようとして起こしていますか？							
11	その行動は、その児童生徒が注目されていない時に、大人を慌てさせたり困らせたりしようとして起こしていますか？							
12	その行動は、大人がその児童生徒に、好きな物を与えたり好きな活動を許可したりすると、すぐに起こらなくなりますか？							
13	その行動をしている時は大人しくし、周囲のことには全く気に留めていないようですか？							
14	その行動は、大人がその児童生徒に活動を促したり要求をやめたりすると、すぐに起こらなくなりますか？							
15	その行動は、その児童生徒が、しばらく大人と一緒にいて欲しいために起こしているようですか？							
16	その行動は、児童生徒がしたいことを制止されると起こしているようですか？							

【4 合計点の算出】

機能	感覚 感覚的な刺激の獲得		逃避 嫌なこと、難しいことの回避		注目 人の注目やかかわりの獲得		要求 やりたい活動、欲しい物の獲得	
	①		②		③		④	
設問	⑤		⑥		⑦		⑧	
	⑨		⑩		⑪		⑫	
	⑬		⑭		⑮		⑯	
	合計							
平均								
順位								

【5 チームとしての分析結果】 * 棟である程度合意した結論、共通理解したその子の行動機能

【6 その行動へ有効と思われる対応】 * チーム全員で対応する具体的なかかわり、手立て、支援

【7 その他】 * 配慮事項、チーム内での約束、タブーなど

【1】Plan(計画)	①情報の収集と状況の整理	<ul style="list-style-type: none"> ◇いつ、どんな状況で頻繁に行動問題を起こすのか ・「きっかけ」(間接的な状況と直前の状況)との関連 どんな場面で、誰が、どうしたときに ・「結果」との関連 ◇どんな機能をもたらし、何を伝えようとしているのか 本人が何かを得ている、または何かから逃げようとしている ◇いつ、行動問題を起こさないのか 時間帯、状況
	②支援計画の立案	<ul style="list-style-type: none"> ◇目標の設定(望ましい行動の決定) ←目指す姿 ・「～しない」といった否定的な表現を用いず、「する(なる)」といった肯定的表現 ・新しい行動が可能かどうか見極める ・新しい行動の難易度を下げて、できやすいものにする スモールステップで ・直後に本人の好む活動を入れる工夫など ごぼうび的なもの ◇直前の状況を変える ・適切ではない行動に代わる新しい行動を、より確実にスムーズに引き出せるために変える。 場所、時間、物、人の行動、活動内容 ◇間接的な状況を変える ・医療や健康面、部屋や建物の構造(距離を離す)、日課等(中身の提示、伝え方) ◇結果を変える ・ほめる、適切な要求を叶えるなど肯定的な対応
	③ミーティングの実施 (共通理解の場、共通支援)	<ul style="list-style-type: none"> ◇情報の共有 ◇支援等にかかわる共通理解 ◇役割の明確化 ◇記録方法、評価方法の確認 ・どんな情報を収集するか? ・記録はいつまでとるのか? ・誰が、いつ、どんな評価をするのか? ・記録様式をつくる。 (労力がかからない、つけやすい、様子がわかりやすい等)
【2】Do(実行)	①記録をつけながら支援を行う	<ul style="list-style-type: none"> ◇計画どおり実行されているか ◇引き継ぎ等情報の共有を図りながら ◇効果があるかどうか <p style="text-align: right;">} ミーティングにて確認</p>
【3】See(評価)	①記録をまとめる (データ、グラフ、文章)	◇子どもたちの行動の改善状況と支援の有効性
	②継続か修正かを決める	◇改善状況と支援の実行状況、目標、支援
	③修正方法を検討し、改善計画をまとめる	◇支援計画作成のプロセスを再度実施
	④ミーティングの準備と実施	

【取り組んだ事例の紹介】

- ・小学部生 自閉症児による唾吐き行動を昇華するための支援
- ・中学部生 感覚刺激的行動とコミュニケーション方法の習得について
- ・中学部生 パーソナルスペースと、他者との心地よいかかわり方の指導
- ・中学部生 貸し出し用DVDを返却できるようになるための支援
- ・高等部生 自分の気持ちを正しく表現する方法を見出すための支援
- ・高等部生 寄宿舎生活にも楽しいことあるよ！ ～余暇の支援からコミュニケーションの拡大へ～
- ・高等部生 みんなと楽しく生活するために ～コミック会話の実践～
- ・高等部生 入浴の仕方(体の洗い方)について考えよう